

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット3 ラベンダー

事業所番号	0190400671		
法人名	医療法人 北武会		
事業所名	グループホーム ほくとII		
所在地	札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2番5号		
自己評価作成日	令和5年5月23日	評価結果市町村受理日	令和5年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400671-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	2023/7/13		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物全体、1階から3階まですべてグループホームとなっています。全体で入居者や職員の確保、防災訓練の実施などの協力体制をしっかりとっております。又、コロナ禍において、職員の確保が難しい時には他のユニットから応援に行くなど連携をとりあっています。防災訓練においては、合同で行ったり施設整備の点検を行うなどして備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市手稲区の市街地に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内で、3階建ての1階と2階にある3ユニットのグループホームである。建物内は、病院転用型で3階にも同法人の2ユニットのグループホームがあり、2階には渡り廊下で特別養護老人ホームが併設している。1階には、多目的スペースがあり、コロナ過では閉鎖していたが、介護予防センターなどの活動に開放している。ホーム内はリビングや食堂、廊下、居室、職員休憩室など全て広くゆったりしており、整理整頓され、温度や湿度も管理しており、清潔感がある。法人は、医療法人だが社会福祉法人などを含めて幅広い業容展開をしている法人グループで、病院や老健施設、特養老人ホームも5カ所運営しており、地域への貢献度が高い。利用者は広いリビングの大きな窓から手稲の街並みを一望しながら、ゆったりと寛いで毎日を過ごしている。コロナ過で外出等を制限していたが、再開し始め、認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットリーダーを中心に毎月のミーティングに参加者全員で復唱してから開始している。理念はユニット内にいつでも見れる場所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、月1回の清掃活動に参加している。いつもは施設内の多目的スペースを地域の方に提供し、介護予防体操を開催していたがコロナウイルス感染対策で今は休止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は対面での話し合いは出来ていないが、地域の方々の意見や相談には対応できるようにしている。事業所の現状や今後の支援の方法などについてもお伝えすることはできる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族や町内会役員、民生委員、地域包括支援センター担当者が参加して定期的に開催していたが、コロナウイルス感染対策のため書面会議で実施していた。参加者から意見を頂き運営に繁栄している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染対策で、グループホーム協議会や区の会議は休会しているが、地域包括支援センター担当者とは運営推進会議で定期的に情報の交換で協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を中心に研修会を定期的実施している。新人の入職時にはオリエンテーションにて実施、定期的他にはユニットごとに適宜実施している。外部への研修は行えなかったがリモート等で参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に虐待についても同時に研修を実施している。全員が研修会に参加できるように実施し、日常のケアにおいて虐待となる行為を学んでいる、又、虐待の事件があった時は本部から注意喚起するよう指示がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用されている方はおりませんが、他のユニットで活用されている方がいますので、必要になった時は情報は得られる環境にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を中心に丁寧に説明し納得して頂いている。又、改定があった時は書面を配布し詳細に説明をしている。退去時についても施設としての対応を明確にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。毎月、ホーム便りを発行しており、コロナで会えない時はホーム便りを見て安心されている。又、来訪される家族や電話では日常の状況を細かくお伝えし相談等は都度対応できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議毎月1回、管理者会議は毎週1回行っている。管理者会議においては全体事項を共有して。又、個人面談については年3回定期的に実施しており職員の意見や提案を運営に反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、定期的に行われる会議や面談を通し職員の状況を報告している。又、管理者からの相談や意見を言える環境を作ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、外部研修には参加できていないがリモートなどでの研修は行うようにしている。又、管理者が中心となり日常のケアについての指導や研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	定期的に行われていた手稲区のグループホームの管理者会議がコロナのため行われていないのが現状ですが、入退きの状況や管理者の変更などでは情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には必ず本人とご家族の面談を行い、支援されている方々から情報を頂いている。入居後の生活に於いてはご本人の望む生活やご家族の思いを含めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際にご家族は本人の今まで通りの生活を望むこともあり、出来るだけ近づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の望む生活も含め、入居後の必要とする支援を行うことを優先している。家族様の状況に応じて必要とする支援も可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ていたことが入居されても継続して出来るよう負担がかからないよう支援している。一人の人間として尊重していく事で信頼関係を築けるよう関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで制限されている中でも面会の機会を作るようしています。又、本人の要望などを家族様に伝え対応して頂く等つながりが途切れないようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らしていた入居者様が多いため来訪者は多い。面会のできる環境を作り対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの特性を理解し関わりを持つようにしている。又、入居者間の関係に配慮し職員が間に入り良い関係を築けるよう関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ内で他に移られた時は必要に応じて情報交換をしている。状態の変化により退居された場合は特に連絡を摂ることはない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝える事ができるのは入居の3分の1程度であるが、困難な方には日常の関わりから行動や表情などから把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご本人がどのように過ごされていたか本人と家族から聞き取りを行っているが、具体的には入居されてから詳しくお聞きすることが出来ているのでサービスに繋げるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常は出来るだけ自由に過ごして頂くが、自分が今までしてきたこと出来る事等は続けて頂くようにしている。又、他者との交流も行い孤立しない生活を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎の担当者が本人の状態を確認しながら意見や要望を聞いている。定期的なカンファレンスの他にも出来る事は速やかに取り入れるようにし、介護計画を作成している。短期目標は6ヶ月毎に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今回、介護記録の見直しを行い誰が見ても理解しやすい形にしている。個別性をもとに気づきなどがあった場合は、申し送りなどで早く情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが出てきた場合には先に出来る事を優先順位にして取り組んでいる。その時の家族の状況を鑑みながら柔軟に対応出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で資源があっても活用できない状況だった。今後、活用できる資源をもとに再開していく事が課題となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診は2回となっている。看護師が常駐しており、緊急時の対応等24時間受けられるようになってきている。家族との連携も速やかに出来ている。歯科や皮膚科の往診もあり家族様に安心して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に変化があれば速やかに看護師につないでいる。医療との連携により適切な治療や受診が早急にできている。又、看護職員も状態の把握に努めているということもありうまく連携が摂れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室の職員とは入院から経過報告、今後の退院の見通し等で連絡を取り合うようにしている。退院されても施設に戻れるよう体制を整えながら今後も継続して連携を取れるように関わっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合の説明を契約時に必ず行っている。事業所で出来る事、出来ないことを明確にお伝えしている。又、重度化が明確になった時は関係者や家族と連携を取り合う事になっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急や事故が発生した時のマニュアルを作成している。定期的な訓練は行っていないが、ユニット会議などで看護師が講師となって研修を行っている。又、緊急時連絡先を作成し速やかに指示を受け対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害に対する防災訓練を年2回実施している。(1回は夜間想定)現在は災害時の事業継続の計画書(BCP)作成書の作成を進めているところである。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居されてから長い入居者が多いため、職員は一人ひとりの人格を理解しており対応している。又、接遇に関してはユニット全員が学べるように数回に分けて適宜研修を開催している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関りの中から、本人が考えている事ややりたいこと等を聞き取れることが出来ている。出来る事や出来ないことがあるが出来る事は家族も交えてお話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日常的には自由に過ごして頂いている。行事やレク等には声かけし参加を促すが無理強いする事はしない。自室にてテレビを見たり、食後横になる等時間が長い時にはお声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日は行事等には、その人の好みの洋服などをプレゼントしている。今までできなかったことがない明るい色やデザインで喜んで着て頂いており、家族様も喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に2回は職員が手作りで元気の出るメニューで提供している。普段、むせ込みのある方でも上手に食べる事が出来ている。お元気な方には食後に茶わんを洗ってくれたりのお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をされたメニューとなっている。体調により食べれなかったり、スムーズにの飲めない時は、とろみをつけたり栄養の補給ができるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝時には一人ひとり口腔ケアの介助を行っているが、義歯の状態や口腔内の状態により必要な時は歯科受診をしている。就寝時は義歯の消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立している人は少ないが、その人の排泄のサイクルを理解し定期的にトイレ誘導を行い汚染を回避することが出来ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態は毎日の送りで情報共有するようにしている。個人の排便間隔を理解することにより、水分提供の状態を確認したりして対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴を嫌がる入居者がおり、スムーズに入浴出来ない等があるがそのような時は、本人の機嫌の良い時等見計らいながら入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて自由に休んで頂いている。長時間の睡眠は夜の睡眠にも影響するので、体調不良以外は起きて頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、状態の確認を行っている。一人ひとりの状態に応じて看護師と情報共有しており、状態に応じて看護師の指示のもと服薬等の調整を行うなどの支援が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活が継続できるよう入居時に聞き取りを行っている。本人の日常の過ごし方、食べ物や飲み物の好き嫌いを理解し、できる事を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の状況では外出の機会は受診以外は得られていないが、今後本人や家族の希望を取り入れ以前のように外出ができるように考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に不安を訴える人に対しては家族様と相談して小銭程度を持って頂くことはあるが、認知症の進行と共に紛失してしまったり、盗まれた等との言うてくることもあるので本人、家族に了承していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族に電話をして欲しいと言われる時は対応している。又、家族からは品物と共に手紙が届くこともあり一緒に飾ったり、手紙を読んだりと支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてリビングの飾りつけや作り物をしている。共用の空間は特に清潔を心がけており、落ち着いて過ごすことが出来るよう配慮している。又、使用回数の多いトイレは汚染時には適宜掃除をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、リビング、食道、廊下も広くゆったりしている。台所は対面キッチンで台所から利用者を見守ることができる。特に整理整頓を心がけている場所でもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は車いすなどがスムーズに入れる広さで、クローゼットとベットが設置している。今まで使っていた家具や小物等は自由に置いて頂けるようになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はバリアフリーになっており、転倒等しないよう整理整頓している。残存機能を活かして生活して頂けるように廊下に手すりの設置や、トイレが近く分かりやすく表示している。		